

革新力

ガ造りの街並みを築く。

大正期には、東洋一と称された「丸ビル」が完成。関東大震災や世界恐慌を経て、戦後、丸の内のビルの多くは

歴史と未来を結び、都市を育てる 三菱地所

が、時代や社会の要請

いう挑戦は続けられていた。

要の急増に伴い「丸ノ内総合改造計画」を推

1998年に公表した「丸の内再構築」のも

脈と所建築。復元に際しての
のは、構造や間取り、建

「三菱一号館美術館」

クト 的建造物を一部取り入
品は れたビルによく出合

サイウ。設計 ■街全体を一つのワー

で初 クプレイスに
丸の内はさらに進化

きます」と説明する。

利関係者との綿密な連携によって支えられて

え、「大丸有地区」に
集う人、企業の力を最

大限に引き出す仕掛けをつくっていく。

(次回は9月5日号に
掲載)



丸の内パークビルディング。赤煉瓦の建物が
三菱一号館美術館。画像は三菱地所提供



し続ける。三墓地所が、企業の新規事業部などでこれにより大手町を進める「丸の内まちまどのニーズにフレキシブルに対応。成長とイノベーションの拠点と通り」の賑わいが神田丸有地区」を貫く「仲大の大きなワークプレなる街を目指す。エリアに延伸される。

イス」と見立て、テナント個社単独では実現しにくい取り組みをエリア全体で提供していく。

■東京の未来を照らす有楽町エリアでは、新たなランドマーク「（仮称）丸の内3-1プロジェクト」（国再開発は、丸の内にとどまらない。東京駅北側の常盤橋（ときわ計画）も進む。

共用ラウンジやコミ（ばし）地区。2028 三菱地所は「場所のユニケーションスパー 年の完成に向け、地上 提供だけではなく、交ス、休養室といった多 385メートルの日本 流のきっかけづくりや

コミュニティ運営といった、ユーザーに寄り添った付加価値の提供に全力で取り組んでいきます」と説明する。

こうした再開発の推進は、公的機関や他の権利関係者との綿密な連携によって支えられている。

100年先を見据え、「大丸有地区」に集う人、企業の力を最